

今更ながら なんばパークス

井澤知旦



【なんばパークスの概況】

なんばパークスは南海ホークスの本拠地であった大阪球場の跡地に建てられた商業施設（地上 10 階、地下 3 階建）で、段丘状の屋上を緑化して庭園にしています。2003 年に第 1 期、2007 年に第 2 期事業として開業しています。庭園の面積は 11,500 m²。

設計はアメリカの建築家ジョン・ジャーディ。米国での都心型商業施設の走りであるサンディエゴのホートンプラザ（1985 年）や博多のキャナルシティ（1996 年）で有名な建築家です。



ジョン・ジャーディの作品

左: キャナルシティ福岡(1996)

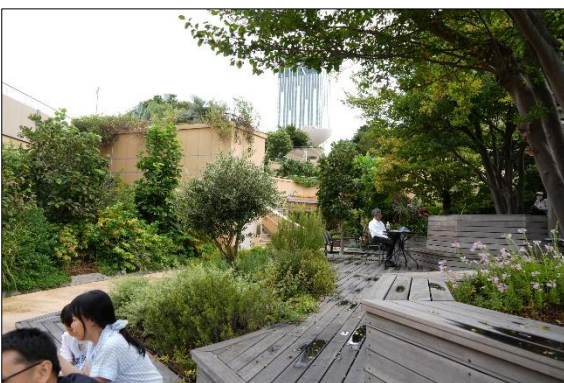
上: ホートンプラザ(サンディエゴ/1985)

私はオープン当時の 2003 年 10 月に最初に訪れ、2025 年 9 月 29 日に 3 度目の訪問をしました。22 年間でどう変化したのかを確認するためです。

【なんばパークスの変貌】

22 年間で樹木のボリュームは鬱蒼としています、高さはアッと思わせるほどの変化はありません。地上面の土でなく、被り土に限界がある屋上なので、高く木が育たないのかもしれませんが。手のかかる花壇は木製ベンチに代わっています。簡易観覧席とステージは閑散としています、雨上がりの月曜日ということも影響しています。22 年前の写真は土曜日でしたので、イベントも多く開催されていたのでしょうか、多くの人が観覧席に座っています。建築家ジョン・ジャーディの作品は積層のある溪谷の表現が多いのですが、ここでは、片や岩肌、片や森をイメージしているようです。

建物は劣化（減価償却）していきませんが、植物は成長・変化（増価蓄積）していきます。そのためのパーク管理は大変だと推察されます。将来も残って欲しい都心のオアシスですが、これからは猛暑日にも過ごせるパークス対策が求められるかもしれません。まあ、クーリングシェルターとしての商業施設がすぐ横にあるので、なかに入ればいいだけです。

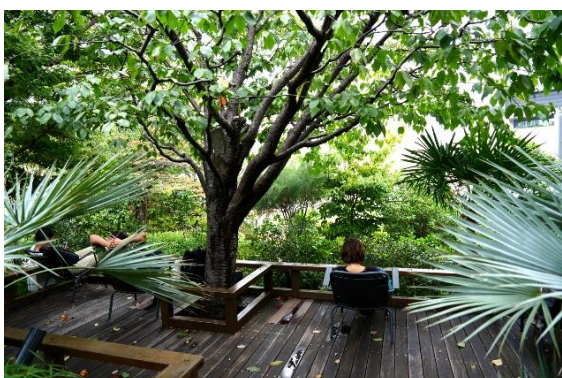


上: 22 年前 (2003.10.25) のエントランス部分の状況。樹木がまだ生育しておらず、地肌が見えている。

下: 今日では樹木が育ち、ツタも生える。樹木の高さはそれほど高くなっていない。

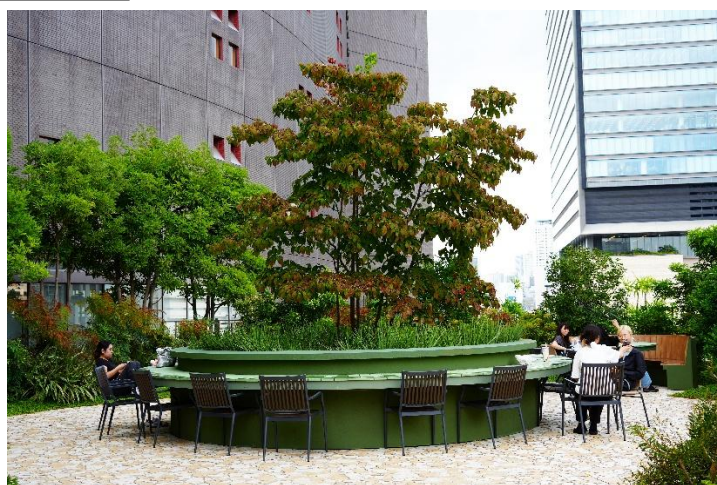
上: 22 年前 (2003.10.25) の広場の部分。花壇がととのえられている。

下: 今日では雨上がりのせいか閑散としている。22 年前は花壇として管理されていたが、木製ベンチが数多く設置され、花壇はどこに？



上: 22 年前 (2003.10.25) の簡易観覧席。土曜日のため、イベントも多いようだが、休憩も兼ね座る人が多い。
下: 平日の月曜日のため、22 年前よりも簡易観覧席に座る人はいなかった。

上: 22 年前 (2003.10.25) の休憩空間。開設當時でも低木は根付いている？
下: 今日の緑に囲まれた休憩空間。



広場のところに新たに設置された円形テーブルと椅子。

ジョン・ジャーディ特有の積層のある渓谷。右側は植栽されて森のようになっている。



なんばパークスから見える、なんばスカイオ(左)とスイスホテル南海大阪(右)。

【屋上ガーデンまたは屋上パーク】

ル・コルビュジェは1927年に「近代建築の五原則」を発表し、そのうちの一つが「屋上庭園」でした。コンクリートの陸屋根が登場することで、建物が占有した地表面積を屋上で取り戻し、コンクリート屋根を保護する機能も兼ねる意図がありました。

日本での屋上庭園は戦前から百貨店屋上を遊園地や庭園にする事例はありましたが、戦後のインパクトある事例はアクロス福岡（1995）の階段状庭園でしょうか。今や緑の山と化しています。そして2003年のなんばパークス、2017年のGINZA SIX ガーデンなどがあります。2012年にオープンした東急プラザ表参道「オモカド」、その対面に2024年にオ



2018年に撮ったアクロス福岡(1995年)。正面から見ると樹木の茂る山だ。



側面から見たクロス福岡。階段状庭園の様子が見て取れる。一皮むけば・・・

ーブンの東急プラザ原宿「ハラカド」の屋上も屋上庭園化をすすめ、商業ビルの特徴付けと来訪者の憩いの場を提供しています。名古屋大学のグリーンベルトを活用したコモネ（Common Nexus）は直近の好例でしょう。



東急プラザ表参道「オモカド」(2012 年)。表参道の角にあるから。「ハラカド」と対面する。屋上庭園は商業ビルを特徴づける。



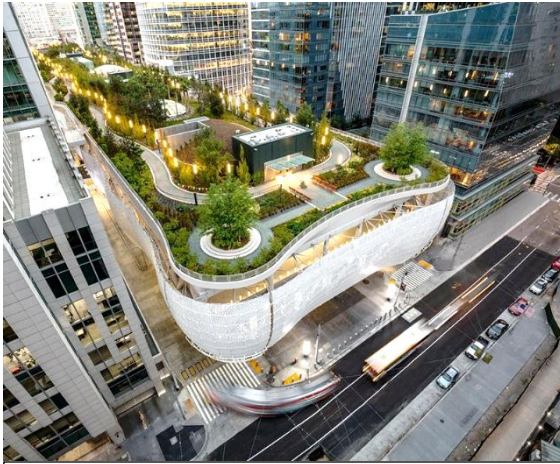
東急プラザ原宿「ハラカド」(2024 年)。原宿の角にあるから。「オモカド」と対面する。段丘上に庭園が広がる。



名古屋大学のコモネ・ネクサス(略してコモネ)。芝生に入れず、いい写真が撮れず、残念です。奥に見えるのは豊田講堂

海外の事例でインパクトが大きい屋上パークは「セールスフォース パーク」(公園面積は 2.2ha サンフランシスコ) でしょうか。2018 年に完成しています。バスターミナルと商業の複合施設の屋上を公園化し、ネーミングライツで名称を提供しています。屋上ですから地上道路の交通に悩まされず、4 街区分の公園が登場しました。高層ビル群のなかで憩いの空間を提供しています。 <https://denshadex.com/sf-salesforce-transit-center/20865/>

もう一つ上げれば、Meta 本社ビルの屋上庭園です。「歩くことで生産性と創造性が向上する」「歩きながら考え、議論できる環境」を目的としているので、これまでとは主旨が異なるようです。



サンフランシスコのセールスフォースパーク
(2018 年)2.2ha のパーク面積。現場に行くと、
地上にある公園であるかのようだ。
<https://denshadex.com/sf-salesforce-transit-center/20865/>



Meta 本社の屋上庭園。「歩くことで生産性と創造性が向上する」「歩きながら考え、議論できる環境」が整備の目的で、環境対策とは異なるのかな？
Meta 社に関する記事を書く場合にはこの写真を使用することができるとのこと。

【猛暑・猛暑・猛暑・・・そして都市の余白】

今や屋上緑化による庭園化・公園化は流行ですが、これは建築物の断熱化、ヒートアイランド現象の緩和、生物の多様性の担保、都市景観の向上などが背景にあります。今日のように、これだけ猛暑日が連続してくると、これまで以上の何等かの対策が必要とされます。猛暑日でも地上も屋上も人々が歩き、憩える空間整備が必須となりそうです。上空から見ると「みんな公園・庭園」というイメージが浮かびあります。

最近、「都市の余白」という言葉を見聞きします。敷地一杯の容積や高さ、利用効率を求めるのではなく、むしろ、一見無駄遣いに見えながらも「街の価値を高める」ような土地の利用をはかるものです。そこは都市の余白であり、人々の生活が溢れる場所です。名古屋では整備した時は都市の防災性能の向上や車社会への対応でしたが、今日の評価では「都市の余白」そのものであるのが、久屋大通あるいは若宮大通ではないでしょうか。先見の明があり、もっと有効に活用しないといけませんね。

「みんな公園・庭園」を実現できるかな？実現の頃には生きてないかな。知らんけど。



名古屋テレビ塔より北側の久屋大通を眺める。パークPFIで芝生広場や商業施設が建っている。



名古屋テレビ塔より南側の久屋大通を眺める。パークPFIで水盤や商業施設が建っている。

(2025.10.26)